

# 花時計

No.30

## 川村学園女子大学

〒270-1138 千葉県我孫子市下ヶ戸1133番地  
Tel.04-7183-0111(代) Fax.04-7183-0115  
ホームページ <http://www.kgwu.ac.jp/>



### いのち萌ゆ

児童教育学科 教授 上橋 菜穂子



NAHOKO UEHASHI

山躑躅<sup>つつじ</sup>を、見たことはありますか。きれいに形を整えられた躑躅ではなく、野山に生えている躑躅を。

私はつい先日、京都に行く機会があって、そこで燃え立つような山躑躅に出会い、しばし、声を失って立ち尽くしました。

淡い新緑の中で、光をあつめ、燃える紅……ああ、命の色だ、と思いました。

大震災からひと月。一瞬にして人も家屋も何もかもが流されていった光景を、毎日のようにテレビで目にし、天気予報の前に各地の放射性物質の濃度の報告を聞く。——ほんの数ヶ月前にこんな日常について話したら、誰もが、SFの読み過ぎだと笑ったのではないのでしょうか。

でも、私たちの暮らしは、これほどあっけなく崩れ去るものなのですよ。そして、そのあけなさは、いま初めて生じたことではなく、人の生も、この世のすべても、もともと消滅と隣り合わせの脆いものに過ぎない。

はるか昔から——たぶん、人が命というものを考えるようになったその瞬間から——人は常に、諸行無常の響きを聞きながら、生きてきたはずなのです。

幸せよ、いつまでも続いて。誰もがみな、そう願う。でも、この躑躅の紅も、わずかの後には色を失い、風に散るのです。

それでも、人は生きていきます。春が巡りくれば紅を燃やす躑躅のように、無常を知りながら、私たちはそれでも、刹那の命を輝かせる。

いま、私たちはきっと、人という生き物が、どのような生き物なのかを見つめられる場所にいるのでしょう。

地球を滅ぼすことなく、生きていけるか。そういう生活に舵を切ることが出来る生き物なのか。

ほんのわずかな一生ですが、未来の子孫たちに、あの頃の人たちのお陰で、あのとき世界が変わったのだ、と言われるような生き方をしようではありませんか。(2011年4月記)



## 輝いている学生たち

### 国際英語学科 4年 池亀由真

私は、3年生の1年間、イギリス・チチェスターカレッジに留学しました。始めは、文法的間違いなどを気にし過ぎて、話すことに抵抗を感じていました。なかなか話せない私にクラスメートが積極的に質問してくれました。質問に答えるという簡単な会話でしたが、これによって話すことに自信ができました。帰国し、1年生のクラスでティーチング・アシスタントをしています。1年生たちに積極的に話しかけ、自信をつけさせてあげたいと思っています。



### ライブは素敵な経験をくれます

#### 史学科 1年 深井美紗絵

バンドを組んで日々ライブに向けて練習に励んでいます。軽音部がない高校だったため、メンバー探しなどに走り回っていた日から結成して早3年が過ぎました。今では都内のライブハウスを中心に、メンバー一同楽しく活動しています。ライブで観客と一体になり演奏する感動はやりめられません。またバンド活動を続けながら、月2回のペースでオーケストラにも参加するなど充実した日々を過ごしています。私の担当の低音は表では目立たない役ですが、なくてはならない音としてバンドを支えています。そのように夢に向かってひたむきに、でも確実に、今しかできないことを将来役立てるよう、日々努力していきたいです。



### 日本文化学科 4年 鎌田真理子

大学1年次より私は茶道部に入りました。実際にやってみて、予想以上に茶道に魅せられた私はかなり燃えており、週一回のお稽古の時間を、6時間に延長していただきました。そして3年次には部長を任されることになりました。たまたま学生たちの中で箏曲サークルを立ち上げる計画があることを知り、「学園祭恒例の茶会で、箏曲とコラボレーション出来たら素敵だろうな」という閃きが頭をよぎりました。



左側が私です

そこで、3年次には箏曲サークルにも入部しました。活動初年度にも関わらず、箏曲サークル一同は猛練習を重ね、10月の学園祭にて演奏を披露することができました。茶会は『秋の花・月』というテーマを設け、箏の曲も「花嫁人形」「荒城の月」「うさぎ」を選び、茶菓子は一日目は「白菊」二日目は「栗名月」を用意しました。箏曲を聴きながらお茶を楽しむという趣向です。茶道と箏曲、この2つの方向から取り組み、よりイメージに近づいた茶会が出来たと思います。

### 幼児教育学科 4年 吉津ユイ

私は壁面サークルの代表をしています。このサークルは今年3月に卒業した先輩が幼稚園や保育園の壁に貼ってあるような壁面が作りたい!と始めたのがきっかけでした。先輩からは実習に行った時にはもちろん保育現場でも役立つこと間違いなし!と聞いたり、壁面サークルのかわいい募集ポスターや先輩方の作った壁面を実際に見て、自分も作れるようになりたいとサークルに参加するようになりました。4月からは新1年生も加わり13名での活動が始まりました。毎月学生研究室や廊下の壁に壁面を貼り学生さん達を楽しませています。壁面を見て「かわいい!」と言われてもらえると嬉しい気持ちになります。これからもメンバーと協力し合ってかわいい壁面製作を頑張っていこうと思っています。



### 大学院 心理学専攻 1年 椎名しおり

私は現在、心理学の大学院に在籍しています。大学生の頃は、心理学科の先生方からご教授を受けるのに加え、社会教育学科の先生方にも精神保健福祉士の資格取得のために様々なご指導をいただきました。多くの先生方から教える機会を得られたこと、そして他学科の学生と交流を持てたことは、私が大学生活を送る上で大変な支えや励ましとなり、心強さというものを感しました。そして現在は大学院において、さらに学びを深めようとした日々を過ごしています。仲間たちと意見を交わしたり、時には雑談をしたりして、少しずつでも互いに支え、励ましあえる関係が築けていけたら良いと感じています。そうして、自分の目的に近づくように日々を過ごすことができそうな期待で胸がいっぱいです。



### 児童教育学科 4年 額賀有花

私は、4年間の学生生活の中で行った、我孫子特別支援学校ダンスクラブのダンス指導のボランティアで、教える側に必要な技術的な面と、置かれる立場について学ぶことが多くありました。最初は、何をやっても理解してもらえていないのかわからず、でもだんだんに、その子の中のルールや、ちょっとした変化を見つけてあげること、相手にわかりやすく伝えるといった努力を、私たちがすることも大事なのだと気付かされました。そうした中で、今ではハッキリ動く、物を言う「モデル」の大切さを実感しているとともに、補助をしてくださる保護者のみなさんの期待も肌で感じることができ、実際の現場で経験を積むということは本当に勉強になりましたし、このような環境に恵まれたことを、私は心から感謝しています。



### 日本学生観光連盟での活動

#### 観光文化学科 3年 船生朋恵

私は学外で日本学生観光連盟という団体で活動しています。この連盟は観光を学ぶ学生同士がネットワークを構築し、実社会の観光現場で学習活動並びに社会貢献を行うことを通して、観光の新たな可能性を求め、これを目的に設立された学生組織です。連盟では観光地をフィールドワーク、合宿やJTB法人東京と共同でマーケティングや地域活性化などを行っています。これらの様々なイベントの企画や運営を行う場で多くのことを学んでいます。学生が自主的に活動することの大切さ、学生の活力と柔軟なアイデアから新たな観光の可能性を考えられる力を身につけることの重要性などです。これらの経験を将来にも活かしていきたいと思っています。



### 生活文化学科 2年 片桐緑子

私は小学校からずっと吹奏楽やオーケストラでクラリネットを吹いていました。全国大会に出場したり、毎年コンサートをやってきて、皆で音楽をつくりあげることが生活の中でかけがいのないものになりました。春休みには、高校の部活でヨーロッパの演奏旅行があり、私は卒業生として参加しました。ドイツ、フランスの2回の公演はどちらも満席になり、中には涙を流して感動してくれた方もいました。音楽は国境を越えた素晴らしいものだと感じる事が出来ました。さらに、有志の方の家でホームステイをさせて頂きました。2日間だけでしたが本当にやさしくしていただき、別れの時は自然に涙が流れました。本当に貴重な経験をさせて頂きました。そして今は高校時代の顧問の先生が指導している吹奏楽の団体に毎週土曜日練習に励んでいます。大学生から社会人、お坊さんなど沢山のひとと活動しており、音楽以外の面でも吸収し充実しています。



## 生涯教育研究会 創立20周年記念の集い

### 生涯教育研究会創立20周年を迎えて

この度、生涯教育研究会の設立20周年を迎えられ、心からお祝いを申し上げます。生涯教育研究会は、「主に子どもたちと関わりながら色々な体験をしたい」という思いから、社会教育学科の第一期生約40名で設立したものです。主な活動としては、我孫子市内の小学生対象の調査を行ったり、青少年教育施設での自然体験や子どもたちと汗まみれに

初代部長 東條(石居)かおり(平成7年3月社会教育学科卒)

なって遊んだり、時にはケンカもしたり失敗もしたりと多くのことを経験しましたが、今では私の大切な宝物となって仕事でも私生活でもいかされています。学生時代にこのような活動をして良かったと、改めて感じているところです。恩師、斎藤教授をはじめ、先生や大学の職員の皆様には大変お世話になりました。改めて感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。研究会のさらなる発展をお祈りしています。

### 成人式を迎えた“わく♪ボラたんぼぼ(生涯教育研究会)”

現部長 吉村千秋(文学部心理学科3年)

「わく♪ボラたんぼぼ(生涯教育研究会)は、昨年の11月、設立20周年を記念してOBの方々を交えたパーティーを開催いたしました。現部員数と合わせて約30人が出席してくださいました。2時間という短い時間でしたが、先輩方の貴重なお話などを聞くことができ、大変勉強になりましたし設立当時の苦労話や楽しかった思い出などを聞くことができました。初代部長石居かおり先輩からこんなお言葉を頂きました。「生涯教育研究会は、直接社会と関わりながら、本物体験をして学びたいという思いから設立しました。良いことも失敗したこともたくさんありましたが、今では私の大切な宝物となってあらゆる場面で活かされています。それも、先生方をはじめ大学職員の方々のご指導があったからこそ心から感謝しています」云々。これまで培ってこられた先輩の思いを大切にしながら、成

人式を迎えた今、これからの新たな一歩を進んでいきたいと思っています。これからもご指導、ご支援をよろしくお願い致します。



# オリエンテーション レポート

## 国際英語学科

丸の内の三菱一号館美術館で「マリー＝アントワネットの画家 ヴィジェ・ルブラン」展を見学しました。18世紀フランスの女性画家、ルブランが描いた王侯貴族の肖像画を鑑賞。美術館の中庭は木々の緑や花々が美しく春を感じました。昼食は近くのアリス・アクアガーデンで美味しい料理を楽しみました。



## 社会教育学科

5月11日の学内でのピザパーティーに続き、5月21日に「千葉県立手賀の丘少年自然の家」においてオリ・キャンを実施しました。当日は好天にも恵まれ、1年生を囲んで2～3年生と教員とで親交を深めつつ、バーベキューを楽しみました。同施設に勤務する社教の卒業生による施設紹介もあり、社会教育施設の一端を知る良い機会となりました。



## 日本文化学科

4月6日に、上野の国立博物館を見学後、昼食会をしました。お目当ての「写楽展」は震災の影響で延期になりましたが、博物館所蔵の工芸品などみごとなコレクションを堪能しました。その後久しぶりの好天で一気に開花した桜を楽しみつつ、不忍池をめぐって東天紅へ。台湾からの留学生、蔡宜均(サイギキン)さんも交え、自己紹介後メールアドレスの交換も始まって、なごやかなひとときを過ごしました。



## 観光文化学科

「我孫子市周辺を知る」ということで、レストラン「ムッターランド」で我孫子の食材を使った料理を味わった後、「北千葉導水ビジターセンター」で利根川と江戸川を結ぶ導水路の役割を学び、地下のポンプ施設を見学。その後、柏市の「あけぼの山農業公園」と「布施弁天」を散策しました。



## 史学科

史学科では、浜離宮と根津美術館の見学へ行きました。まずは、東京スカイツリーなどを眺めながらバスで都心まで直行し、三井ガーデンホテルでランチビュッフェを楽しみました。自己紹介をして学生同士、教員と学生の親睦を深めました。その後、浜離宮を散策、次に根津美術館で「古鏡とひなかさり」展を見学しました。明治天皇・昭憲皇太后より第六皇女昌子内親王が拝領した雑道具や古代の鏡などの展示を見て、歴史に親しむ貴重な時間をともに過ごすことができました。

## 心理学科

今年度は、柏市にあるホテルで実施し、内容を前半は教員紹介及び履修についてのガイダンス、後半を食事会とした二部構成としました。食事会では、テーブルごとに自己紹介をしたり、友達になった学生同士ケータイ電話の番号を交換している姿が見られました。



### ふるさと紹介

#### ●心理学科 教授 田中 裕

私のふるさととは、鳥取県の西部、米子市です。鳥取県の人口は58万人ほどで全国最小(柏市(40万人ほど)と我孫子市(14万人弱)合わせた人口とほぼ同じ)です。高校の数が現在でも全県30校強なので、シード校になれば3回勝つと甲子園へ出場できる単なる田舎、なんて思いながら過ごしていた気がします。しかし、離れてみると良いところが見えてくるものです。鳥取県に住んでいるときは特産の20世紀梨なんて美味しいとも思いませんでしたが、今は違います。そう、写真(右上の雪を被った山)は鳥取県の名峰『大山(だいせん)』です。正面から見る風景が有名ですが、空から見ると海との調和も相まって、その美しさはまた格別です。



#### ●幼児教育学科4年 加藤千草

青い空、青い海、照りつける日差しは眩しく輝き、道行く人や街はゆったりとした時間が流れる島。そう、私の故郷は風光明媚な沖縄です。5月、どこよりも早く梅雨明けを迎え、夏本番が始まります。沖縄ならではの「沖縄そば」「さーたーあんだーぎー」などおいしいものも沢山ありますが、お盆には親戚中が集まり、ごちそうを用意し、エイサーを見て、ご先祖様をもてなすという一大イベントがあります。昔からの伝統的な文化が受け継がれている素敵な故郷です。みなさん、そんな「☆うちな～をゆたしくうにげーさびら☆」  
☆うちな～(沖縄) ☆ゆたしくうねがーさびら(よろしくお願ひします)

#### 笠間市のまちづくり特産品紹介!

私の住んでいる笠間市は「笠間焼き」が有名で、その笠間焼きに因んだ「ひまつり」には多くの観光客で賑わいます。最近、街づくりの一環として骨董品「蚤の市」の開催、名産品の栗を使用した栗焼酎「愛宕の雫」などを特産品として販売しています。笠間市に是非一度足を運んでみてください。そしてお祝いの席には、このお酒で祝杯を。



# キャンパスだより

## ボランティアコーナー

### ●心理学科 4年 越川美沙

私は現在、我孫子市教育研究所の地域交流教室で、発達障害児を対象とするソーシャルスキルトレーニングのボランティアをしています。ソーシャルスキルトレーニングとは、月に1度クイズやゲームなどをしながら、対人関係を広げることや、コミュニケーションに必要なスキルを向上させることを目的とした小集団による指導です。



活動が始まった頃の子どもたちは、自ら手を挙げて意見を述べたり、人前で発表することに躊躇してしまったりする姿が見受けられました。しかし、それが活動を重ねていくうちに立派に発表できるようになり、子どもたち同士で協力することもできるようになっていくのです。その姿をみると、成長の大きさをとても感じます。

子どもたちの頑張りと成長を通して、人は努力次第でこんなにも変わることができるのだとこの経験から強く学びました。これからはボランティアを通じて、子どもたちと共に成長していきたいと思っています。

### ●幼児教育学科

「女子大・短大の進学相談会」に参加してくれた幼児教育学科の学生達です。



当日は会場内の運営スタッフとしてはもちろん、川村学園女子大学のブースにきてくれる高校生の対応など活躍してくれました。他大学との学生同士の交流も一つの勉強になったと話してくれ、どの会場に行った学生達も楽しんで参加してくれたようです。今年度はみんなで協力して女子大の良いところなどを書いた手作りポスターも作って会場に持っていきました。自分たちのポスターの出来にも満足げな学生達でした。

## 平成22年度大学コンソーシアム柏「地域学リレー講座」の講演会について

生活文化学科 教授 福永 淑子

川村学園女子大学キャンパスにおいて、平成22年10月30日に、平成22年度大学コンソーシアム柏主催の「地域学リレー講座」の一環として、「美味しく食べて健康に生きる～医食同源～」の演題で講演しました。当日は午後から台風接近の予報が出ていて、雨が降り続く中にもかかわらず、午前10時から1時間半の講演に多くの受講生に参加頂き、熱心に聞いて下さったことにも嬉しく思いました。

講演後に様々な質問があり、特に「今後も川村学園女子大学での講演に参加したい」との声が一番うれしく思うと同時に責任の重さを感じました。



アンケートに答えて頂いた参加者の9割超の高評価です。このような講演会を通じて地域との連携を拡大することによって本学活性化への波及効果が期待できると感じました。

## 大学図書館における東日本大震災被害

3月11日の大地震では、本学も少なからず被害を受けました。特に図書館では、3階と4階の書架から13万冊ある図書のうち、約8割の本が落下してしまい、また4階の閲覧室の天井は一部が抜け落ちて大きな穴が空き、図書館員も途方に暮れる惨状でした。その後の余震で、せっかく棚に並べた図書が再度落下するということもありましたが、司書と、教職員や業者(延べ90名)、ボランティアの学部生や大学院生(15名)、藤田先生(担当教員)のご協力による司書課程を履修している学部生(延べ49名)等の労作により、5月2日から図書館は開館することができました。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。感謝。



図書館の被害状況



図書の片づけをする学生たち

文責:高島(図書館)

## 大学からのお知らせ

### 大学主催 川村学園女子大学公開講座を実施します

講座:「元気に生き抜くための得健康講座」

期間:10月22日(土)・29日(土)・11月5日(土)・12日(土)

受講は無料。問い合わせは庶務課(04-7183-0111)まで。

10/22	① 開講の辞	湯浅 弘
	② 食生活と健康(栄養学の視点から)	大坂佳保里
10/29	① 生きることの困難(精神医学を通じて)	渡邊 昭彦
	② 生命の連続性と健康	坂口 武洋
11/5	① 脳の老化予防と生きがい	坂口 早苗
	② 人はどのように失った機能を回復させてきたのか	永吉 道子
11/12	① 中途障害を生きること	朝比奈朋子
	② 医療の場における生命倫理	西川 将巳
	① 生命をなくす食のあり方(消費者論の視点から)	富田 昌志
	② 閉講の辞	湯浅 弘

① 1時～2時 質疑応答15分 休憩15分  
② 2時30分～3時30分 質疑応答15分

## 卒業生は今

## 紀 菲菲

国際英語学科 2010年卒



2011年2月からニュージーランドにいます。到着した初日から銀行口座を開いたり、学校や寮の手続きなどで慌ただしく、改めて振り返ってみるとあっという間でした。今一番強く思うことは「ニュージーランドに来てよかった」ということです。そう思えるまでには何度も泣きそうになり、何度も泣きました。しかしそれでも「頑張ろう」と思えたのは日本にいる友達をサポートがあったからです。なんでもないメールや手紙のやり取りが私の心の支えであり、またみんなも日本で頑張っていると思うと強くなれます。そして留学という夢が実現できたというのも私一人だけの力ではありません。この夢が実現するまで正直いうととても長い道のりでした。TOEFLやIELTSの点数が思うように取れず、何度もあきらめそうになりました。しかしそんな時、先生方に励ましていただいたり、留学機関の方を紹介していただいてサポートしていただきました。本当に感謝しきれないぐらい友達に、先生方に感謝しています。

今度、日本に帰った時には、友達や先生方に胸を張って「成長しました」と報告できるよう、一生懸命ニュージーランドで頑張ろうと思います。

## 藤田 麻祐子

日本文化学科 2009年卒



私は卒業後、青森県立図書館非常勤事務員として勤務しています。児童室での貸出返却・展示・検索、参

考郷土室でのレファレンス補助などに従事しています。最初の頃は、緊張し貸出処理でバーコードを読むだけの作業も手間取っていました。しかし、本を受けとった利用者の笑顔を見ていくうち、楽しみながら仕事をする事ができるようになりました。利用者からの検索では大雑把な内容のものもあり、利用者が何を知りたいのか導き出すことの難しさを実感しています。児童室では多くの親子連れや子供達が来館し、図書館の必要性を強く感じました。多くの利用者に、求めている本や情報を提供出来るよう努めたいです。

## 小林 由希子

幼児教育学科 2010年卒



現在、私は千葉県で保育士として働いています。2歳児クラス担任として、子どもたちと向き合い毎日過ごしています。身の回りの生活習慣が徐々に自立していく大切な時期であり、心身共に大きく成長する時期ということで、個々の対応に日々試行錯誤しています。

“子ども達と楽しく過ごそう”を目標に頑張っていますが、今は仕事に追われ1日の仕事をこなしていく事で精一杯というのが現実です。しかし、「せんせい大好き」「ありがとう」と笑顔を見せる子ども達を目の前にすると、私自身笑顔になります。今後も子ども達の気持ちを大切にできる保育士になれるよう努力していきたいと思っています。

## 東 千香子

社会教育学科 2009年卒



今年の4月から千葉県手賀

の丘少年自然の家に通勤することになりました。高校時代に自然の家を知った時とても興味を持ち、学生になってすぐに手賀の丘でボランティアを始めました。自然活動や野外炊飯、創作活動など子どもたちと一緒に活動しつつ、多くのことを学びました。卒業後は企業に努めましたが、昨年末、自然の家から職員募集の話を受け、前からこのような施設で働くことが夢だったのですぐに応募しました。学生時代の活動が就職に結びつくとは思っていませんでしたが、利用者の方々の笑顔を見る毎日がとても幸せです。多くの方に手賀の丘少年自然の家を知って頂き、ご利用をお待ちしています。

## 難波 典子

生活文化学科 2010年卒



私は現在、都内のドラッグストアで接客業に携わっています。普段ただレジに立って、お客様に商品を販売するだけではなく、商品の荷出しをしたり、お客様に見やすいように商品の陳列をしたりと動き回る仕事も多いです。お客様の症状に合わせた薬を選んで、薬の成分を説明し、購入する薬をお客様に選んで頂くお手伝いもします。そして、早く元気になって頂けるように養生法をお伝えすることも業務の一つです。

早く元気になるにはどんなものを摂ったら良いか、消化の良い食事は何かなど、学校で学んできたことがここで活かされていると感じます。

現在は登録販売者資格取得のために勉強に励んでいます。今後も、より良いアドバイスと接客が出来るようになるために日々精進していきたいと思っています。

## ● チャレボラ



こんにちは、チャレボラです。私達は3年生5人で活動しています。

チャレボラはチャレンジボランティアを略したもので、その名の通りボランティアにチャレンジするサークルです。休日を利用して「我孫子特別支援学校の親父の会」や「青年ボランティアばらばらの木」の方々と一緒にボランティアに参加しています。どちらも精神障害を持った方々と関わるボランティアが多いので心理学や福祉に興味があるならば、接点を持つ良いきっかけになると思います。もし、興味がある方が居らっしゃいましたら、月曜日のお昼休みに9114でミーティングをしていますので、一度遊びに来てください。

## ● 歴史考古学研究会

こんにちは。歴史考古学研究会です。漢字ばかりでお堅いサークルなのかな？と思われがちですが、先輩後輩関係なくとても楽しく活動しています。主な活動は週に2日、お昼休みにみんなで楽しくご飯を食べたり、お喋りをしています。夏休みや春休みの長い休みには課外活動で土器の発掘作業、土器の修復活動などのお手伝いをさせてもらっています。特に土器の発掘作業は一般の人にはなかなか体験できることではないのでとても勉強になります。



鶴雅祭ではみんなの興味のあるテーマの歴史について調べ、発表しています。去年の鶴雅祭では映画などで話題になった「海賊」について調べて発表しました。たくさんの方が見に来てくれたのでとても嬉しかったです。

歴史考古学と入っているので史学科向けと思われがちですが、他の学科の人でも入れますので、歴史に少しでも興味のある方、戦国武将が好きな方、新撰組が好きな方など、是非見学に来てみてください。毎週火曜・木曜のお昼休みに7111教室でお待ちしています。

## 編集後記

- 震災にもめげず海外へ旅立ってゆく学生の姿をお伝えてきて嬉しいです。(N.H.)
- 今回は「ふるさと紹介」が新企画されました。皆様のふるさとへの思いや情報などを知るよい機会となり、新しい発見ができました。(R.M.)
- “学びの故郷”の木々は年々大きくなっています。是非、見に来て！(T.S.)
- 3月の大震災で発刊が早まりましたが、予定通り発刊できました。皆様のご協力に感謝申し上げます。(M.H.)

発行日 / 平成23年7月8日第30号発行  
制作 / 川村学園女子大学広報委員会